



地元の思いが込められた花と本を贈られました。

# 「までいの村」から。

「までい」は、「手間暇惜しまず」「丁寧に」「心を込めて」という飯館の方言です。

飯館から、地元の声を届ける。

「ぜひこの事業が他の地域の模範となれるように、全力で進めてほしい」

「またここ長泥の気候に合う野菜作りを、早く再開したい。これからへの願いを込めた言葉がありました」

「これからの再生事業に必要な人をどうするのか」

「地域やコミュニティを再生するための配慮もお願いしたい」  
地元だからこそその切実な発言もありました。

去る2月9日、小泉進次郎環境大臣が

飯館村の再生利用実証事業の現地を視察。

その折の、村長、区長をはじめとする

長泥地区の住民の方々との意見交換会でのことです。

小泉環境大臣は、一つひとつの

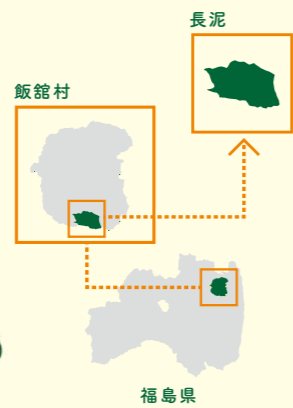
意見・要望に耳を傾けながら、

「小さなことからでも、変化を目に見えるものにした

そして皆さまと大きな花を咲かせるよう

再生事業にこれからも尽力してまいります」

と語りました。



環境省は飯館村の長泥地区において、除去土壌の再生に関する安全性や作物の育成の確認を通して、将来の農業の再生を図るための実証事業を行っています。

「いたて便り」全4回を通して、環境再生に向けた進捗状況などについてご報告いたしました。



長泥は峠の桜並木が有名です。



福島と  
同じ方向を向き、  
同じゴールを目指す。  
それが私の姿勢です。

共に進むこと。  
同じ場所に立ち同じ方向を向くから、喜びも痛みも共有できる。それを今回の飯館村への訪問で再確認しました。  
また、3月5日、大臣執務室に福島から鉢植えを運び込みました。  
除去土壌を土で覆い、観葉植物を植えたものです。  
私はこの鉢植えを、福島の評・風化という課題に向き合う決意の形と考え、真の復興に向けて、一歩一歩前に進んでまいります。